

いもう 葦毛通信



ワレモコウ

平成 28 年 10 月 14 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町 3 丁目 1
TEL : 0532-56-6060

No. 43

第 1 回葦毛湿原再生フォーラム

「土壌シードバンクを活用した湿原の再生」

題名：第 1 回葦毛湿原再生フォーラム「土壌シードバンクを活用した湿原の再生」

とき：11月19日(土)開会13時30分～16 時30分 (開場12時30分)

ところ：穂の国とよはし芸術劇場プラット・アートスペース (西小田原町)

講師：鷺谷いづみ (中央大学教授、保全生態学)

演題：「自然再生における土壌シードバンクの活用」

定員：200名 (当日先着順) 参加料：無料

問合せ：豊橋市文化財センター (☎0532・56・6060)

1、葦毛湿原再生フォーラムを開催します！

豊橋市文化財センターでは、遷移が進み、湿地としての景観を失いつつあった県指定天然記念物「葦毛湿原」と市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」の再生を目指し、平成 24 年度から大規模植生回復作業を行っています。

これまでの大規模植生回復作業の内容と成果を紹介し、葦毛湿原の再生・保全に関して、最新の学問的成果を保全生態学の研究者にご講演いただきます。講師は中央大学教授の鷺谷いづみさんで、保全生態学研究の第一人者です。

葦毛湿原では、この最新の保全生態学という学問の成果を取り入れて植生回復作業を進めています。葦毛通信 No. 1 の巻頭のコラムに土壌シードバンクを取り上げたように、大規模植生回復作業を始めた当初から、土壌シードバンク内の埋土種子をどのように活用するのかということは、最大の課題でした。

作業開始当初は、土壌シードバンクが葦毛湿原のどこにどのように存在しているのかはよく分かりませんでした。大規模に木の伐採や除草などの作業を進める一方で、小さな実験区を 30 ヶ所程設定し、様々な条件で経過観察をしています。

このような活動から、様々なことが分かるようになりました。葦毛湿原では土壌シードバンクは薄いと考え、上に堆積した植物、腐葉土、表土等を正確にきれいに除去すること、また、特にネザサやコシダ・ウラジロのように侵略的に湿地内に入ってくる植物を除去するには根の層を除去することが必須であるということが分かりました。つまり、良好な湿地だった頃の地表面 (土壌シードバンクの表面) をきれいに露出させるということです。

葦毛湿原で行っている大規模植生回復作業は、多くの方の意見を取り入れ、様々な実験区を設けて経過観察しながら進めています。作業の方法や結果は、「葦毛通信」で公開していますが、葦毛湿原での取り組みは、各地で湿地の復元に取り組んでいる方々にとっても参考になる事例だと思います。今回は、土壌シードバンクに注目して、鷺谷先生にご講演をお願いいたしました。ぜひ、葦毛湿原再生フォーラムにご参加ください。

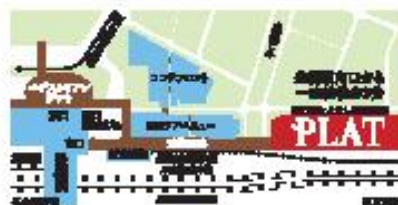
第1回 葦毛湿原再生フォーラム

土壌シードバンクを 活用した湿原の再生



平成28年**11月19日** **土** 開会13:30～(開場12:30)

穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース



〒440-0867 愛知県豊橋市西小田原町123番地

●プログラム

18:30	開会
18:40～19:30	「葦毛湿原大規模再生回復作業について」 豊橋市文化財センター ● 齊元洋
19:30～19:40	休憩
19:40～20:00	「自然再生における土壌シードバンクの活用」 中央大学教授 ● 鷲谷いづみ
20:00～20:30	質疑応答



講演者

鷲谷いづみさん
(中央大学教授、農学博士)

当日
先着順
200名

入場
無料

主催 ● 豊橋市教育委員会 問合せ ● 豊橋市文化財センター TEL.0632-56-6060

2、2016 モニタリング報告-7

葦毛湿原では、シラタマホシクサは盛りを過ぎ、ワレモコウ・サワギキョウ・ヌマガヤ等が咲き、スイランやホソバリンドウが咲き始めました。秋の花が盛りを迎えています。

V地点(三の沢)

V地点は昨年度作業を行ったところで完全に森林化し、かつての湿地は森に覆われていました。作業の経過は葦毛通信 No. 32・34で報告しています。

右写真上は、作業直後の状況で、メギやシラキ等の一部の木を選択的に残し、それ以外の多くの木を伐りました。この地点だけで約800本を伐りました。木の伐採と除草だけを行い、抜根や根の層の除去は行っていません。今年度、バックホーで除去を行う予定です。

右写真中は、作業後約3カ月の状況です。多くの切り株からヒコバエが伸びています。また、画面手前では草がかなり出現しています。この部分の多くは木の根の層や腐葉土がかつての湿地の地表面を覆っています。

三の沢の水の流れは、左手前から中央に向かって流れています。水の流れの周辺では、ミズギボウシ、ミカワバイケイソウ、イワタカンアオイ、スルガテンナンショウなどが発芽しました。ミカワバイケイソウは6株が開花しました。

右写真下は作業後約6カ月の状況です。ヒコバエはさらに伸びて、草も成長しています。シラタマホシクサが水道沿いに点々と16株出現し、開花しました。しかし、水の流れがあるところは、植物の発芽が少ないようです。

これ以外には、ダンドボロギク、メリケンカルカヤ等の外来種や、アカメガシワ、カラスザンショウ



V地点：2016年4月2日（南から、作業直後）



V地点：2016年7月6日（南から）



V地点：2016年10月13日（南から）

等の陽光性の先駆種が出現しましたが、湿地状態に戻すために、定期的に除去しています。特にアカメガシワが多く、軽く 1000 本を超える量です。発芽したら、できる限り早い時期に除去するようにしています。

V-1地点

6×3mの観察区として設定したところです。

右写真上は作業後間もない春で裸地になった水際からミカワバイケイソウが3株出現しました。また、中央左の大きな切り株の周りは根が地表面に盛り上がり、根の間に腐葉土が溜まっています。この部分は少し高くなっており乾燥しています。この盛り上がったところの縁を中心にショウジョウバカマが数多く発芽しました。裸地の礫の間にはまだ土が多く残っています。

右写真中は作業後3カ月ほどした状態です。切り株からヒコバエが伸びており、土が残っているところを中心に植物が発芽しました。

右写真下は、作業後7カ月ほどたった状態です。切り株のヒコバエもかなり伸び、1m程になっています。手前には除去しきれっていないカラスザンショウが大きくなっています。右側の水の流れは、かなりの水量になり、下刻されて水道がほぼ固定され、水に洗われて礫の間の表土が流され、チャートの表面が白く目立つようになりました。

今年の作業ではバックホーを使い抜根と根の層の除去を行う予定です。



V地点：2016年4月20日（北から）



V地点：2016年6月14日（北から）



V地点：2016年10月13日（北から）